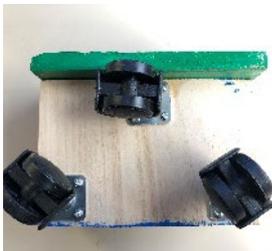


教材・支援機器活用実践事例

実態差のある重複障がい学級の生徒たちが、夢中になってゲームに取り組むための教材
「キャスター付きマレットと的」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・中学部3学年（重複障がい学級）
	障がい名等	知的障がい 自閉症
	子どもの実態 （学習上又は生活上の困難さ等）	○ 実態差はあるが、全員がゲームを好み、主体的に取り組むことができる。 ○ 自分の思いと反する時や嫌なことがあった時などに、怒ったり周りの意見を聞かずに、自分が思うやり方で学習を進めようとしたりする生徒もいる。
授業について （教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	生活単元学習
	単元(題材)名	「みんなでやってみよう～テーブルホッケーをしよう」
	単元(題材)の概要	○ 的を倒すというルールが分かりやすく、楽しさや達成感を得やすいため、全員が主体的に取り組むことができる。 ○ 的を立て直したりボールを拾ったりするなどの役割が必要となるため、生徒が自分の役割を果たし、みんなで協力し合いながらゲームを進行できる。
教材・教具・支援機器について	教材・教具・支援機器	<p>【名称】キャスター付きマレット</p>   <p>【名称】的</p>  <div data-bbox="1098 857 1485 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">使い方</p>  <p style="text-align: center;">マレットを前方に押し出し、ボールを転がして的に当てる。</p> </div>
	ねらい・工夫点等	<p>【キャスター付きマレット】 マレットをしっかり握り、安定した状態で前方に押し出すことができるよう、取っ手があり、キャスター付きのマレットを製作した。キャスターの数は生徒の実態によって異なり、動きが安定しにくい生徒はキャスターを4個にした。さらに興味関心をもちやすいように、好きなイラストやシールを貼り、オリジナルのマレットにした。</p> <p>【的】 生徒が簡単に立て直すことができるように、クリップにセロハンテープを付け、テーブルと固定した。少しの力でも倒れるように、軽い素材を使用した。</p>
	材料・作成方法等	<p>【キャスター付きマレット】 100円ショップで木材とキャスターを購入。教師が木材を切断し生徒がグルーガンと木工用ボンドを使用して組み立てた。</p> <p>【的】 生徒がイラストを描いたカラーボードをダブルクリップではさんだ。</p>
子どもの変容や評価		<p>○ 力が弱く動きに安定感のない生徒でも、スムーズにマレットを動かすことができたことで、全員が主体的に取り組むことができた。</p> <p>○ 的がテーブルに固定されたことで、簡単に生徒が立て直すことができ、生徒が役割を果たすことができた。</p>